

アプローチ

函館市の学校教育推進の指針

平成27年度 57号

学校教育推進の指針である「アプローチ」は、「函館市義務教育基本計画」の実現を目指し、年度ごとに具体的な取組のための指針を示しているものです。

最後
まで
やり
切る
指導
の
確
実
な
実
現
を
目
指
し
て

豊かなつながりの中で『確かな学び』を実現する取組の改善・充実

私たちは、「函館市義務教育基本計画」の実現を目指して、子どもの実態をつぶさに捉え、子どもの夢と希望を育み、自立した社会人として成長できるよう、家庭や地域、関係機関などと協働し、積極的な取組に努めています。

基本計画の推進期間が残すところ3年となり、その理念に迫るためには、昨年度に引き続き、子どもと直接触れ合う教員の資質や指導力の一層の向上に努めるとともに、全ての子どもたちの知・徳・体の調和のとれた育成を目指し、最後までやり切る指導を継続することが必要であると考えました。

教育は夢とロマンに満ち溢れたものであり、それが未来を創造する原動力となります。函館市の全ての学校・園が一丸となって、子どものよりよい成長のために、「豊かなつながりの中で『確かな学び』を実現する取組の改善・充実～最後までやり切る指導の確実な実現を目指して～」を本年度の学校教育推進の重点として取り組んでまいります。

函館市義務教育の基本理念

心豊かに学び

共に未来のふるさとを拓く子どもをはぐくむ

函館市の学校教育の充実に向けて

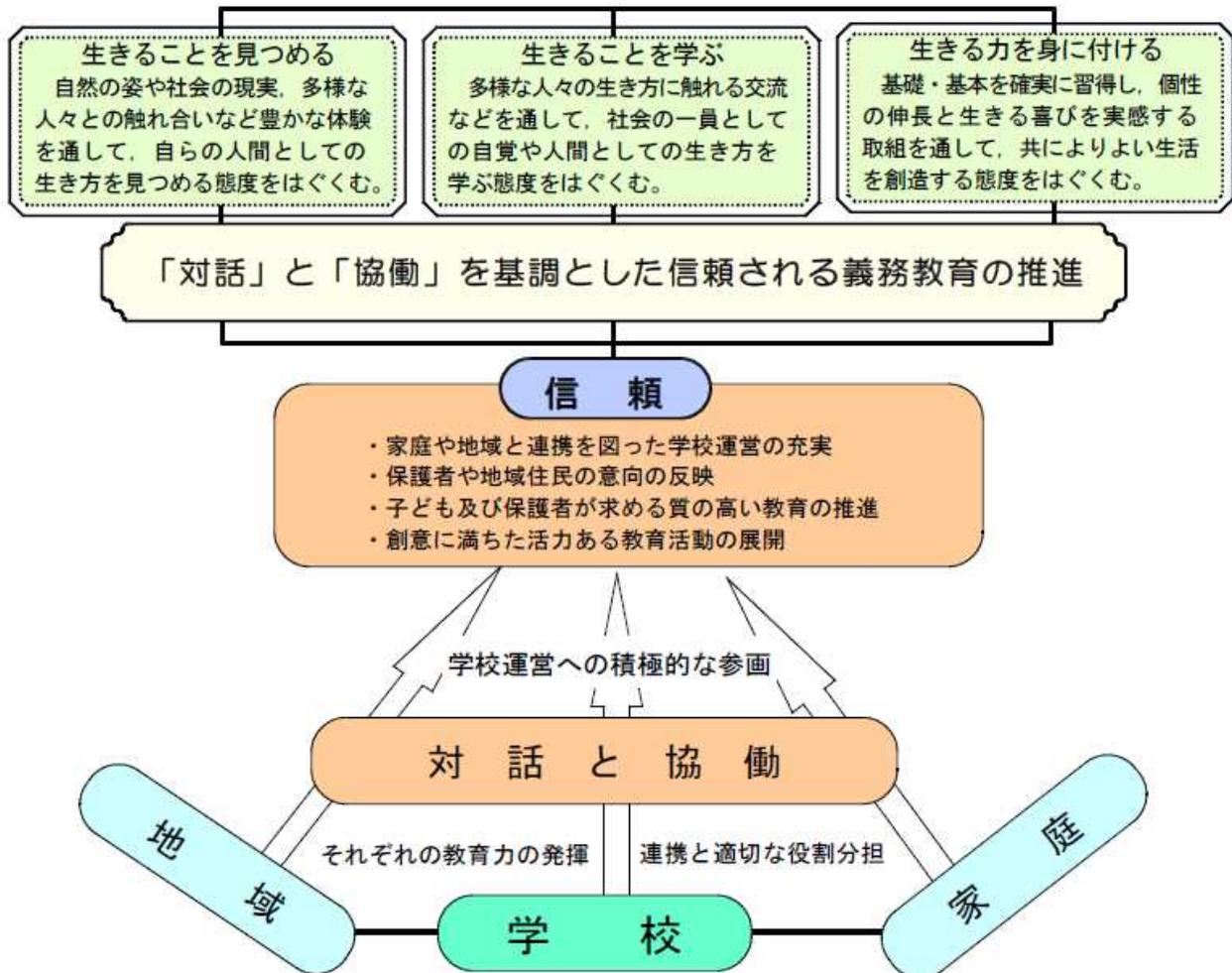
〈函館市義務教育の基本理念〉

心豊かに学び 共に未来のふるさとを拓く子どもをはぐくむ

めざす子ども像

- **個性豊かに生きる子ども**
「確かな学力」を身に付け、個性や創造性を発揮し、自らの生き方を創り出す子どもをはぐくみます。
- **優しさをもって生きる子ども**
責任とモラルを重んじ、他者を思いやり、人間尊重の精神や自他の生命を大切にす子どもをはぐくみます。
- **たくましく生きる子ども**
健やかな心と体を持ち、理想や自己の目標に向かって努力する活力に満ちた子どもをはぐくみます。
- **函館に生きる子ども**
ふるさとのよさを見つけ、誇りをもち、先人の生き方に学び、進取の精神をもって新たな文化を創造する子どもをはぐくみます。
- **共に未来を生きる子ども**
社会の変化に主体的に対応する力を持ち、広い視野に立って社会に貢献する子どもをはぐくみます。

基本姿勢 生きることを見つめ 生きることを学ぶ学校教育の創造



「推進」から「改善・充実」へ

(H26)

(H27)

平成27年度

重点指導事項

I

粘り強さを育む
組織的な学習指導の
改善・充実

II

組織的な支援を
目指した特別支援
教育の改善・充実

III

支持的風土を築く
学年・学級経営の
改善・充実

IV

今日的な教育課題の
解決を図る取組の
改善・充実

函館市義務教育基本計画の後期における重点項目の策定に係り、各学校(園)の実態や本市の教育課題を受け、学校が取り組むべき基礎・基本を最後までやり切ることを指針とし、学校教育推進の重点を設定するとともに、4つの重点指導事項として整理しました。

平成27年度は、昨年度のアプローチ評価における各学校(園)の重点指導事項にかかわる調査結果を整理し、最後までやり切る指導を一層進めるため、これまでの取組の「推進」から「改善・充実」へ一歩前進する意味を含め、4つの重点指導事項を左記のように改訂しました。

函館市義務教育基本計画
(めざす子ども像)



「義務教育基本計画」後期における4つの重点項目

授業
改善

特別
支援
教育

生徒
指導

今日的な
課題への
対応

「最後までやり切る指導の確実な実現を目指して」

重点指導事項Ⅰ：粘り強さを育む組織的な学習指導の改善・充実

1 学力向上に向けた授業改善

(1) 学習規律の確実な定着を図る指導

【達成目標】□ 全ての子どもに学習規律が身に付くよう、学校ぐるみで取り組む。

- 子どもの実態や発達段階に応じた学習規律を作成し、徹底させるための指導方法を確認したり、定期的に評価を行ったりするなど、学校ぐるみで継続して指導しましょう。
- 子どもたちに学習規律の大切さを理解させたくて、全教室に掲示するなど、常に意識させるよう工夫するとともに、自己評価させるなど、確実に身に付くように指導を徹底しましょう。

(2) 問題解決的な学習の確実な推進

【達成目標】□ 問題解決的な学習を通して、全ての子どもが思考したり判断したりする探究型の授業に積極的に取り組む。

- 評価規準に基づいた学習の「めあて」をわかりやすい言葉で提示するとともに、課題解決の見通しをもたせましょう。
- 本時の「めあて」を達成するために、全ての子どもが自ら考えたり、「学び合い」によって、自分の考えをさらに広げたり深めたりする探究型の授業に取り組み、徹底して思考力・判断力等の育成を図りましょう。
- 子ども一人ひとりの習得状況を客観的に把握し、個の実態に応じて、学習内容の確実な定着に努めましょう。

2 主体的な学習習慣の確立

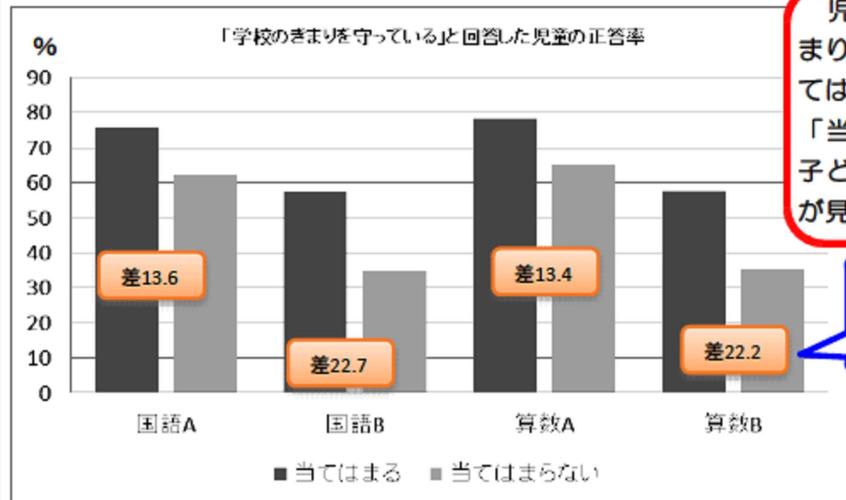
(1) 子どもの主体的な学習態度を育成する指導

【達成目標】□ 家庭学習の大切さを理解させ、主体的に取り組む子どもを育成する。

- 子どもや保護者と協力して家庭学習の大切さを理解させるとともに、取り組み方を粘り強く指導しましょう。
- 子ども一人ひとりの生活状況や学力状況等に応じて家庭学習の内容を吟味するとともに、授業内容等と関連させるなどの工夫をしましょう。
とりわけ、中学校は教科間で連携し、効果的な家庭学習を進めましょう。
- 近隣の小・中学校において、学習規律や家庭学習の仕方を交流するなど、一貫性のある指導ができるよう工夫しましょう。

学習規律の確実な定着に努めましょう

～ H26 全国学力・学習状況調査から～



児童生徒質問紙の「学校のきまりを守っている」において、「当てはまる」と回答した子どもは、「当てはまらない」と回答した子どもより、正答率が高い傾向が見られます。

特にB問題で差が顕著に見られます。また、中学校でも同様の傾向が見られます。

【児童生徒質問紙より】

小学校で約4割、中学校で約8割の子どもが「当てはまる」と回答しています。

昨年度との比較から、小学校は減少、中学校はほぼ同等、全国平均と比較してもほぼ同等のポイントです。

このことから

子どもたちが…

- 学習規律の必要性や重要性を理解できる。
- 学習規律を常に意識できる。
- 子ども自身が評価、改善することができる。

【学校質問紙より】

小学校で約7割、中学校で約9割の学校が「当てはまる」と回答しています。

昨年度との比較から、小学校は減少、中学校は増加の傾向が見られ、小学校、中学校とも全国平均を上回っています。

このことから

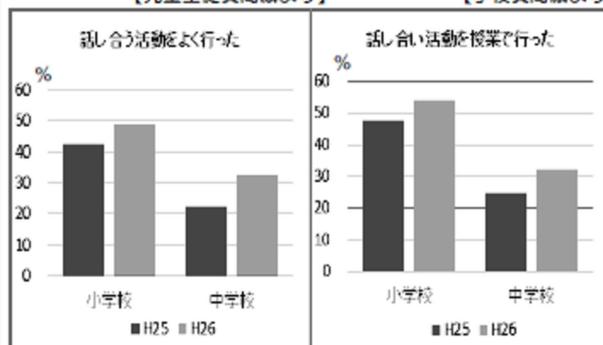
学校として…

- 子どもの実態や発達の段階に応じた学習規律を作成する。
- 教職員間の共通理解と継続した指導を徹底する。

探究型の授業を徹底しましょう

【児童生徒質問紙より】

【学校質問紙より】

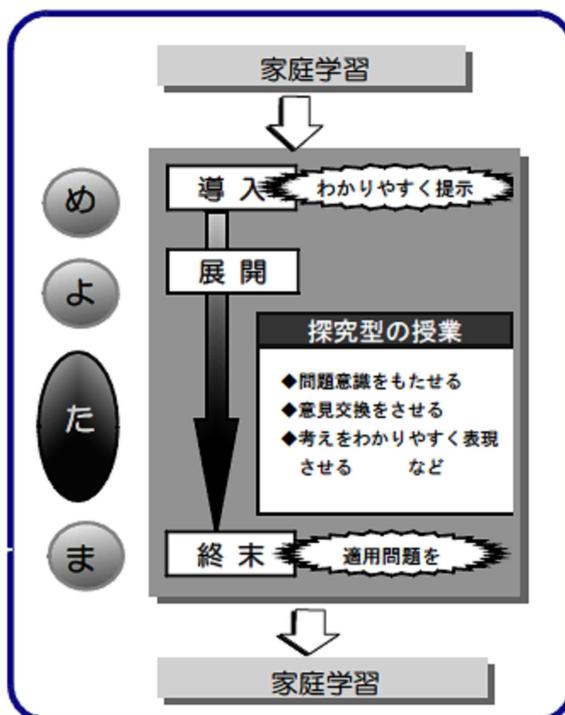


○ 昨年度との比較から、小・中学校ともに、話し合い活動を取り入れている傾向が見られます。

このことから

次のステップとして

- ◆ 子どもが自ら考え、グループで話し合わせたり、学級全体で意見交換したりするなど、子どもが思考を深め、考えを表現できる授業に取り組みましょう。



重点指導事項Ⅱ：組織的な支援を目指した特別支援教育の改善・充実

1 子ども一人ひとりの実態に応じた支援の一層の充実

（１）子どもの成長を支える校内支援体制の確立

【達成目標】□ 全ての教職員による「子どものよりよい成長を支える」校内支援体制の確立に取り組む。

- 校長のリーダーシップのもと、特別支援教育コーディネーターを中心として、「いつまでに、だれが、どのようにかかわるのか」を明確にするとともに、全ての教職員に確実に周知し、学校ぐるみで取り組みましょう。
- 子ども一人ひとりのよりよい成長を願い、全ての教職員が意見を出し合うなど、組織的・協働的な取組を推進しましょう。

（２）子どもの特性に応じた適切な支援の充実

【達成目標】□ 子どもの特性を客観的に把握し、より確かな支援に取り組む。

- 客観的な見取りや日常のきめ細かな観察により、対象となる子どもの「困り感」や「変容」をつぶさに捉え、子どもの特性に応じた確かな支援に取り組みましょう。
- 保護者の理解と協力が得られるよう、発達にかかわる相談の技能を身に付け、保護者の心情に寄り添いながら、子どもの支援に取り組みましょう。

2 専門性の向上を目指した研修の充実

（１）各種研修の推進や関係機関との連携

【達成目標】□ 研修の充実により、教職員一人ひとりの専門性を高めるとともに、学校としての組織力の向上を図る。

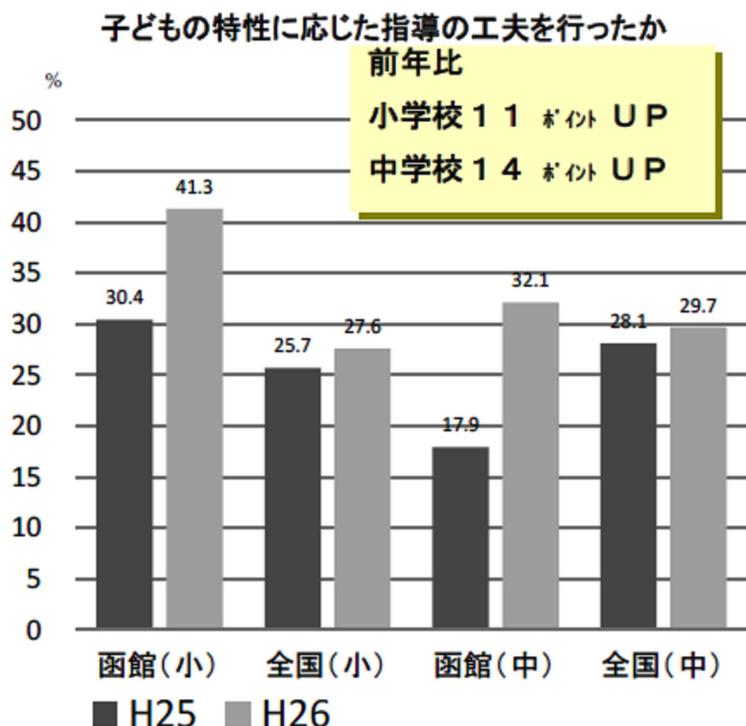
- 校内における役割や経験等に応じた研修に積極的に取り組むとともに、事例研修を有効に活用するなど、学校としての組織力を高めましょう。
- 教育センターなどで実施している研修を活用し、特別支援教育の理論や知能検査の技能の習得などに努め、専門性を高めましょう。

【関係機関と連携する際の留意点】

- 専門家の支援の対象は、子どもではなく学校です。
従って、学校全体が「学ぶ姿勢」で連携することが極めて重要です。
- 校内支援委員会において十分協議し、課題と連携の方針を明確にしましょう。

特別支援教育への「意識の高まり」が見られます！

～ H26 全国学力・学習状況調査から～



小学校 11 ポイント UP
中学校 14 ポイント UP

「特別支援教育について理解し、授業の中で子どもの特性に応じた指導上の工夫を行っている」という設問において、「行っている」と回答した学校が増加しています。

指導の工夫

教育上特別な配慮を要する子どもへの支援の工夫は、全ての子どもにとっても、「わかりやすい授業づくり」につながります。

平成27年度は「工夫を行った」を

100%に！

校内支援委員会の取組

- 子どもの実態に応じて、タイムリーに開催していますか？
- 具体的な支援策を協議していますか？
- 協議内容について、全ての教職員で共通理解していますか？
- PDCAサイクルに基づいた計画的な支援が進められていますか？

専門性向上の取組

- 事例研修を取り入れるなど校内研修の工夫をしていますか？
- 校外研修で学んだことを全ての教職員で共有していますか？
- 関係機関からの助言を支援に生かしていますか？

「いつまでに、だれが、どのように」

専門的な視点や客観的な資料を踏まえ、個別の指導計画を作成しましょう。

計画を踏まえ、効果的な支援に努めましょう。

子どもの実態や変容に基づき、指導や支援内容が適切かどうか再検討しましょう。



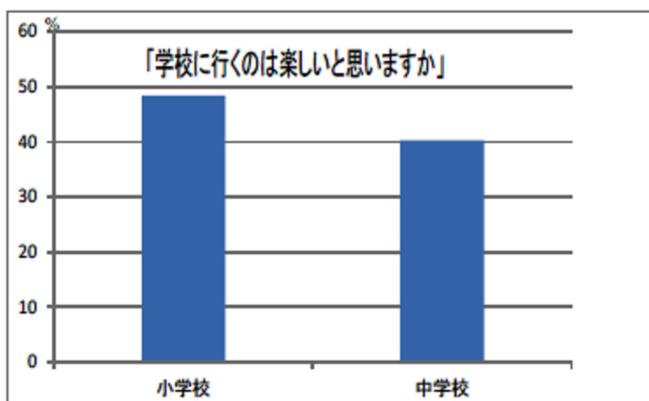
アプローチP11～13の「特集 函館市の特別支援教育推進体制」も併せて参照ください。

重点指導事項Ⅲ：支持的風土を築く学年・学級経営の改善・充実

支持的風土の確実な醸成

豊かな心の育成に向けた指導の重点を明確にし、スピード感をもって学年間・学級間で情報を共有するなど、学校ぐるみの学年・学級経営を確実に進めましょう。

～ H26全国学力・学習状況調査から ～



児童生徒質問紙の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に、「当てはまる」と回答した子どもは、**小学校で48.4%**、**中学校で40.2%**です。

全ての教育活動を通して、子どもたちが「学校が楽しい」と実感できる指導の工夫・改善が求められます。

1 生徒指導の機能を生かした教育活動の充実

(1) 自己指導能力の一層の育成

【達成目標】□ 全教育活動に生徒指導の機能を生かし、子どもの自己指導能力の育成に取り組む。

- 教育活動において、自己決定や自己選択の場や機会を意図的に設定し、個と集団の質の高まりによる相互作用を意識した指導や支援の工夫を図りましょう。
- 子ども一人ひとりが互いに尊重し、望ましい人間関係を育むために、子どもの個性や特性を重視するとともに、目標の設定に子どもも参画するよう工夫しましょう。

(2) 道徳教育の確実な推進

【達成目標】□ 道徳教育推進教師を中心とした校内体制を機能させ、全教育活動を通して、子どもの豊かな心の育成に取り組む。

- 全ての教職員が道徳教育において指導力を発揮できる体制を整えるため、道徳教育推進教師の役割を明確にするとともに、学校全体の教科等や生徒指導、保健指導等との関連を図った体制の整備に取り組みましょう。
- 「道徳の時間」の実施に当たり、年間指導計画を確実に整備し、年間授業時間数を確保するとともに、内容項目の全体構成および相互の関連性と発展性を踏まえた指導を充実させましょう。

■ 道徳の教科化に向けて ■

- 子どもの実態を踏まえた教育課程の改善・充実
- 道徳教育推進教師を中心とした校内体制の整備
- 全体計画および年間指導計画に基づいた道徳の時間の授業実践

2 組織的に取り組む教育相談体制の充実

(1) 積極的な子ども理解と効果的な取組の推進

【達成目標】□ 教育相談の知識や技法を身に付けるとともに、校内体制の整備に取り組む。

- 子どもの実態や発達の段階に応じて、担任教諭や養護教諭、スクールカウンセラー等との日常的な連携や、全ての教職員で役割と責任を明確にした組織的な教育相談体制を構築しましょう。
- 子どものよりよい成長のために、専門的な知識や技法を研修会等で深め、積極的に教育相談に取り組みましょう。

知・徳・体の調和のとれた発達を目指しましょう!

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

～H26全国学力・学習状況調査から～

いじめはどんな理由があっても
いけないことだと思いますか

小学校	71.3%
中学校	86.1%

人の気持ちが分かる人間に
なりたいと思いますか

小学校	73.2%
中学校	74.1%

函館市義務教育基本計画
「めざす子ども像」の実現のために

— 函館市のすべての子どもたちが、「いじめは絶対に許さない」という立場を具現できる学校教育の工夫

— 道徳教育と生徒指導との密接な関係を重視した
指導・支援の工夫・改善

100%の達成を実現しましょう!

重点指導事項Ⅳ：今日的な教育課題の解決を図る取組の改善・充実

1 食に関する指導の充実

【達成目標】 □ 学級担任、教科担任、栄養教諭等が連携した食に関する指導に計画的・継続的に取り組む。

- 全体計画や年間指導計画に基づき、学級担任や教科担任、栄養教諭等が連携し、目標の具現化を図る授業を確実に実施しましょう。
 - 「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣の定着を図るため、PTA活動において重点的に取り組むことを働きかけるなど、家庭との連携を深めましょう。
- * 平成26年度 学校教育指導資料「学校における食に関する指導について～子どもの健やかな成長のために～」をご活用ください。

2 体力向上の取組の充実

【達成目標】 □ 運動の日常化に向けて、意図的・計画的に取り組む。

- 子どもが日常的に運動に取り組むことができるよう、体を動かす「時間」の創出、「空間」の工夫を意図的・計画的に行いましょう。
- 体力の向上を意識した体育の授業改善を目指すとともに、運動の日常化に向けて、子どもの実態や学校での取組を学校だよりや保健だより等により伝えるなど、家庭や地域への啓発を積極的に行いましょう。

3 ICT活用の推進

【達成目標】 □ ICTを効果的に活用した教育実践に取り組む。

- ICT機器の特性を理解し、授業において効果的に活用できるよう研修を進めるとともに、積極的に実践しましょう。
- 携帯電話やスマートフォンなど、子どもの利用実態を把握し、教師はもとより、保護者と子どもが共に情報活用能力を身に付けられるよう学習機会の充実に努めましょう。

4 キャリア教育の充実

【達成目標】 □ 子どもの学習意欲の向上に向けて、意図的・計画的に取り組む。

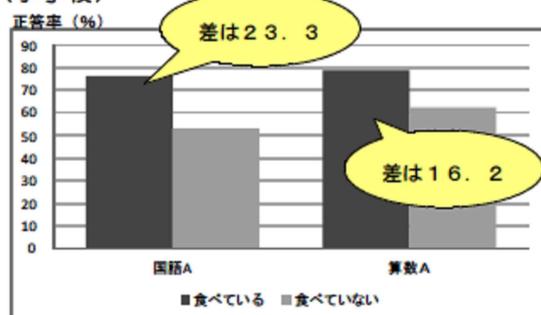
- 子どもが、将来の夢や目標をもつことができるよう、実態に応じて、学ぶことの意味や価値を考えさせる授業を工夫しましょう。
- 望ましい職業観や勤労観を養うため、職場訪問や職場体験など、目的を明確にした体験活動を実施しましょう。

食に関する指導

朝食摂取と学力には相関が見られます！

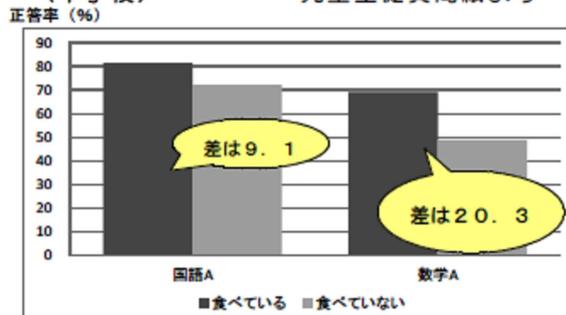
～ H26 全国学力・学習状況調査から～

〈小学校〉



〈中学校〉

～児童生徒質問紙より～



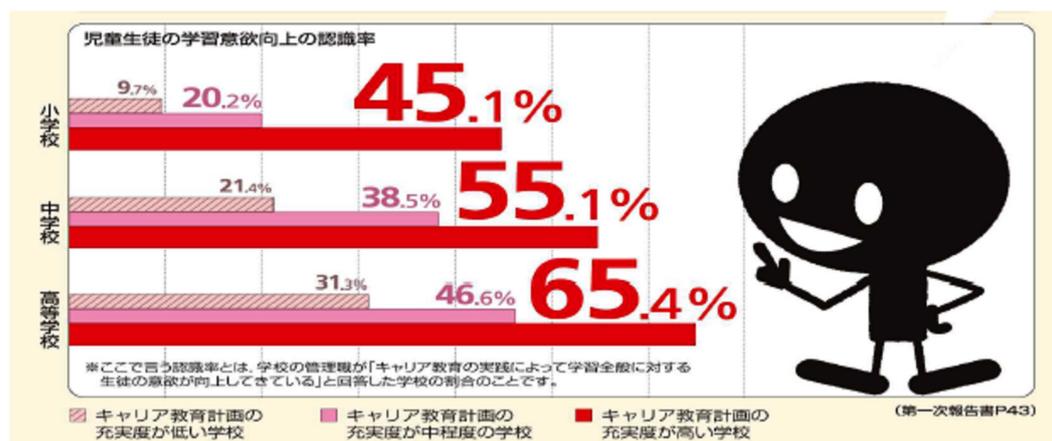
自校の子どもたちの状況を把握していますか？

朝食摂取の有無と学力の相関を把握することで、学力向上の観点からも、朝食や食に関する指導の重要性を確認することができます。また、その結果を基に、自校の食に関する指導の重点や具体的な取組内容を設定していくことも考えられます。

キャリア教育

学習意欲の向上には、キャリア教育の役割が大切です！

子どもたちにとって、学ぶことの意義を理解することが大切であり、学習意欲の向上や学習習慣の確立はキャリア教育が担う最も重要な側面です。



(出典：平成26年3月 キャリア教育が促す「学習意欲」
文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター)

『将来の夢や目標をもっていますか。』

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
小学校	70.5%	70.9%	70.6%
中学校	46.7%	48.9%	47.0%

全ての子どもが、将来の夢や目標をもつことができるような工夫が必要です。

キーワード『自立する学校』

函館市の特別支援教育

一人ひとりの子どもの社会的な自立を目指し、個々のニーズに確実に応えるためには、学校が特別支援教育に関する知識や技能を確実に身に付け、組織力を発揮し、これまで以上に効果的な指導や支援が行えるようにすることが重要です。
また、その実現のためには、学校が自立し、質の高い教育を提供できるようにすることが必要です。
本市においては、本年度から、新たな推進体制により、特別支援教育の充実を目指します。

平成27年4月

本年度は、推進体制のここが変わります。



多様化するニーズに対応できる本市の特別支援教育の推進を目指し、関係者による「函館市特別支援教育推進協議会」を設置し、その在り方について、広く意見交流、協議します。



函館市就学指導委員会の名称を「函館市教育支援委員会」に変更し、就学先の決定のみならず、その後の一貫した支援についての助言も行います。



これまでの「特別支援教育サポート委員会」と「就学指導委員会調査員」を統合して、「サポートチーム」を組織し、就学後の支援の充実を図ります。

支え合い

自立する学校

～子どもの成長を願い主体的に取り組む学校～



「自立する学校」を目指して(本年度の重点)

組織力の向上

<校内支援体制の充実>

校内支援委員会の活性化

- 特別支援教育コーディネーターを中心として、校内支援委員会を実施し、より適切な指導や支援について、具体的な協議を行う。
- 全ての教職員の知恵を寄せ合い、より一層、質の高い指導や支援の実現を目指す。

<研修の充実>

知識・技能の習得

- 校内における役割等に応じた研修に取り組む。
- 個々の経験等に応じて、教育センターの研修など、ステップアップを目指した校内研修等を積極的に活用する。

校内支援委員会の協議を経て、必要な場合は、関係機関と連携しましょう。

「サポート・エリア・ネットワーク (SAN)」

各学校における特別支援教育の一層の充実を目指し、「サポート・エリア・ネットワーク (SAN)」を構想しています。

「サポート・エリア・ネットワーク (SAN)」とは、**近隣の学校を組み合わせて**エリアを形成することにより、**エリア内の学校が連携**し、専門的な知識や技能の交流や、支援方法等の検討を行うなど、**近隣の学校が支え合い**ながら、特別支援教育の充実を目指すシステムです。

本年度は、モデルエリアを選定し、「サポート・エリア・ネットワーク (SAN) モデル事業」を進め、効果的な取組の在り方を検討します。

函館市の特別支援教育推進体制

函館市特別支援教育推進協議会

【主な役割】

本市の特別支援教育の充実・発展を目指し、その在り方について幅広く意見交流、協議します。

函館市教育委員会 (事務局)

<学務課>

- 実施計画、推進、学籍関係事務手続き等
- <教育指導課・教育センター>
- 就学相談の実施等
- サポートチームとの連絡・調整
- 特別支援教育巡回指導員との連絡や調整
- 教職員研修の企画・運営
- 校内研修、校内体制の指導や助言
- 情報収集および情報管理
- 啓発活動

など

函館市教育支援委員会

【主な役割】

一人ひとりの子どもの教育的ニーズを見極め、就学先や支援の在り方等について協議し、サポートチームとともに具体的な支援を進めます。

就学指導部会

適応指導部会

サポートチーム

<主な改善点>

- a. これまでの「就学指導委員会」の機能に「支援の在り方」の協議を加えた。
- b. 「サポートチーム」が2つの部会に参加することで、学校における支援との一貫性を図った。

<主な改善点>

- c. 就学指導部会の審査対象となる子どもの知能検査を行う「調査員」と、学校からの要請に応じて具体的な支援を行う「サポート委員会」を統合し、「サポートチーム」を組織した。

【サポートチームは】

- 適切な支援方法について助言します。
- 各種心理検査等のサポートをします。
- 各学校の校内研修等に協力します。

支え合い

自立する学校

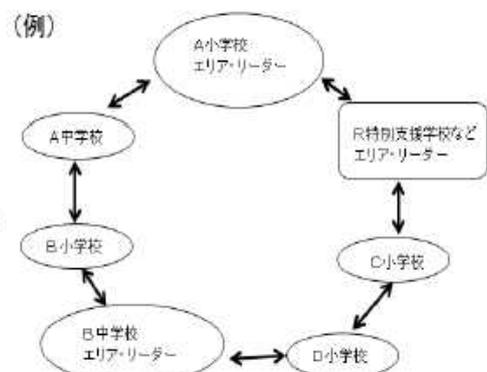
～子どもの成長を願い主体的に取り組む学校～

【例えば、各小中学校では】

- 特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援委員会の充実を図るなど、校内支援体制を強化します。
- 各種検査等の実施により子ども理解の充実を図ります。
- 校内研修（事例検討会等）の充実を図ります。

サポート・エリア・ネットワーク (SAN)

(例)



- エリアリーダーを中心に、近隣の学校の「支え合い」による支援の充実を目指します。